

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	健康推進課長 村下 伯	電話番号	0852-22-5248
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	難病相談・支援事業		
目的	(1) 対象	難病患者及びその家族	
	(2) 意図	総合的な相談支援を行い、在宅療養上の適切な支援を行うことにより、安定した療養生活の確保と、難病患者及びその家族の生活の質の向上を図る。	
事業概要	○難病相談支援センター事業 ・難病相談支援センターを設置し、患者等の療養・日常生活上での悩みや不安解消を図る。 ○難病患者地域支援対策推進事業 ・患者等の療養上の不安解消を図るとともに、要支援難病患者に対する適切な在宅療養支援が行えるよう、保健所を中心に地域の関係機関と連携を図る。 ○在宅重症難病患者一時入院支援事業 ・在宅重症難病患者が一時入院することが可能な病床を確保し、難病患者の安定した療養生活の確保と、介護者の福祉の向上を図る。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	在宅療養支援（患者・家族支援）者数	目標値	3,600.0	3,600.0	3,600.0	3,600.0	人
	式・定義	訪問延べ人数・相談延べ人数・教室参加者人数（保健所＋支援センター）	実績値	3,554.0				
			達成率	-	-	-	-	
2	指標名		目標値					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	22,775	33,902
うち一般財源 (千円)	12,656	20,276

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・難病相談支援センターにおける相談件数は、平成21年度851件、平成22年度919件、平成23年度966件、平成24年度1,010件、平成25年度867件、平成26年度806件、平成27年度862件で推移している。
 ・在宅重症難病患者の一時入院制度を平成21年度に創設し、利用日数は平成22年度延べ99日、平成23年度延べ354日、平成24年度延べ360日、平成25年度延べ282日、平成26年度延べ282日、平成27年度延べ210日であった。
 また、受入医療機関数も、平成22年度6か所、平成23年度9か所、平成24年度11か所、平成25年度16か所、平成26年度20か所、平成27年度21か所と拡大した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・在宅重症難病患者一時入院支援事業の受入医療機関が増え、身近な地域で受入が可能となった。
 ・難病相談支援センターのレイアウトを変更し、患者が集いやすい場の提供を行った。
 ・難病サロンを各地で開催し、患者等が参加しやすい環境の整備を行った。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・難病相談支援センターにおける相談件数が頭打ちとなっている。
 - ・患者会等への参加者の減少
 - ・患者会等への新規参加者の減少
 - ・圏域によって備わる社会資源が異なる
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・難病患者の高齢化
 - ・難病患者のニーズの多様化
- ③原因を解消するための「課題」
- ・患者同士の交流の場の支援
 - ・難病患者の支援機関同士の連携強化

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・地域における難病患者・家族の支援者が集まる「難病対策地域協議会」において、圏域の課題を整理し、適切な在宅療養支援が行えるよう、関係機関同士の情報共有と連携強化を図る。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）